

春風にさそわれて

令和四年五月十五日 山口仁史

とどこおった日常にとび石の休日がゆるやかに重なる

春風にさそわれ 峠道をつかの間のドライブ

新緑のわけ木のそばに咲く淡色のクスノキの花がおしえてくれる山の深み

春風にさそわれ 高台より海峡をのぞむ

一面の青空に応えるように海面はかがやき

宙を舞うユニークな飛行船に笑顔をこぼす

波の音と潮のかおりに包まれる海岸沿いの遊歩道

車が行き来する対岸の街並みを眺め 岸辺の石段に腰を下ろす

タツパの中のサンドウィッチとポットに入ったコーヒーに息をつく

春風にさそわれ 園芸会場をおとずれる

出迎えてくれるのは花壇に咲く色とりどりのアネモネ

あまい匂いにさそわれ バラのアーチをくぐり

ラッピングされた鉢植えのカーネーションをひとつ選ぶ

春草をじゆうたんがわりに

ラップが包むおにぎりと地産のから揚げを頬ばり

パノラマに広がる芝生が木漏れ日にそよぐ

春風にさそわれ 川にかかった無数の鯉のぼりと出会う

赤青みどりとひしめいて

橋のたもとで眺めれば 川にそよぐ鯉のぼり

川べりに降りて見上げれば 空にはばたく鯉のぼり

ゆったりとした時間がおわりに近づく